

# 平成30年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立ち寄り地数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					3.5箇所					4.0箇所
実績		2.35箇所								

  

指標名	墨田区における来訪者の観光消費額推計									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					4,500億円/年					4,750億円/年
実績		4,200億円/年								

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
平成29年度に実施した「観光消費額等調査」の結果によるものであり、今後も3年に一度調査を実施する。	H28	140,521
	H29	157,063
	H30	139,184

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
<b>B</b>	区内回遊促進イベント等の実施により、多くの観光客が区内を訪れている。

## 4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
		(2) 現状維持とする。
○		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
<b>【上記の判断理由】</b>		
東京スカイツリーによる経済波及効果を区内全体の産業活性化に結び付ける上で、観光施策の推進は、本区における最重要テーマである。区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくるため、より効率的な運営を図る必要がある。		
<b>【今後の具体的な方針】</b>		
更なる観光客の誘客を推進すべく、「すみだ3M運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連携したものづくり観光、すみだならではの観光資源を活用したまち歩き観光、商店街・商業施設等と連携した観光プログラムの充実を図っていく。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	区内循環バス運行等経費	110,920	12,433	123,353	適正な運行により観光資源を連携させる。	4,500人	改善・見直し
						4,053人	平成29年度
2	水辺空間を活用した賑わい創出事業	19,992	6,217	26,209	産直市等により魅力的な水辺空間を創出し、楽しめるまちをつくる。	65,000人	現状維持
						69,000人	平成29年度
3	地域連携 区内回遊イベントの実施	9,153	7,105	9,153	地域を盛り上げる回遊イベントを実施することで観光資源を連携させる。	6,500人	現状維持
						6,538人	平成29年度
4	観光舟運促進事業	1,000	1,776	2,776	観光舟運を中心とした水辺の賑わい創出により、楽しめるまちをつくる。	5,000回	統合
						4,276回	平成28年度
5	両国観光まちづくり グランドデザイン推進事業	998	3,552	4,550	地域と共に観光まちづくりを推進し、両国地域の賑わいを創出する。	1回	現状維持
						1回	平成28年度
6	地域DMOの推進	15,000	8,881	23,881	すみだDMOが中心となり、地域と共に観光まちづくりを推進し、墨田区内の地域の賑わいを創出し、楽しめるまちをつくる。	9,300,000人	改善・見直し
						8,142,160人	平成29年度
7							
8							
9							
10							
11							
12							

# 平成30年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位						
事務事業	区内循環バス運行等経費					1			
事業概要	観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上を図るため、主要な駅、観光エリア、公共施設を巡る区内循環バスを運行する。					主管課・係（担当）			
						観光課観光担当			
						03-5608-6500			
施策への 関連性	適正な運行により観光資源を連携させる。								
必要性・ 妥当性	区民のニーズ								
	平成25年度に実施した利用実態調査では、利用者の82%が区民であった。また、1日当たりの平均利用者数が毎年増加していることから、区民の足として定着しており、区民のニーズは高いと判断する。								
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）								
代替可能性：なし 民間事業者の主体性に任せた運行では、観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上という目的を達成することが難しいため、区が運行計画を策定し、バス事業者に委託して実施する必要がある。									
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	1日乗車券の年間販売枚数				単 位	枚	
		最終目標値	目標年度	/	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		3,700	37	/	目標	3,600	3,700	3,700	3,800
					実績	3,697	3,171		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37	
			目標	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700
		実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	指標の選定理由：観光客の利用状況の推定指標となるため 目標値の理由：24年度導入当初からの推移をもとに設定。31年度は五輪による増を想定								
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	1日当たりの平均利用者数				単 位	人	
		最終目標値	目標年度	/	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4,500	37	/	目標	4,500	4,500	4,500	4,600
					実績	4,119	4,053		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37	
			目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	実績								
指標の選定理由及び目標値の理由									
指標の選定理由：利用状況の指標であるため 目標値の理由：区内循環バスの想定利用者数であるため。31年度は五輪による増を想定									
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34		
	95,794	110,920							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕					

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上という目的を達成するには、区が実施する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事業目的は施策と合致しており、事業の適格性は高い。1日当たりの平均利用者数は目標に達していないため、今後利用者増に向けた取組を一層推進していく必要がある。		5	4	3	3
<b>3 効率性・経済性</b>		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
運行開始年から毎年乗降客数は増えており、区民や観光客の足として定着しているため。					
中間・最終年度の講評	運行収支不足額の一部について補助を行っているため、今後利用者増に向けた取組を一層推進していく必要がある。				
今後の方向性	更なる利便性の向上と乗降客数の増加を目指すとともに、観光客の区内回遊を促進するための見直しを行う。引き続き乗降客数等の調査を実施する。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	水辺空間を活用した賑わい創出事業					2		
事業概要	うるおい広場等を活用した産直市「THE GREENMARKET SUMIDA」の開催等を推進することで、人々が集い、賑わいが生まれる魅力的な水辺空間の創出を実現する。					主管課・係（担当）		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への関連性	産直市等により魅力的な水辺空間を創出し、楽しめるまちをつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「観光イベントの実施」と回答した区民が32.4%（8項目中3位）あり、高い需要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	産業と観光の融合を目的に、区内事業者の出店枠も設けているが、民間事業者では区内外の様々な団体との調整が難しいため、区が実施する必要がある。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	イベント回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		9	32	目 標	7	9	9	10
				実 績	7	9		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	10	11	11	12	12
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会までうるおい広場等を活用したイベントを実施することで、誘客促進を図り、水辺の賑わいを創出していく必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	イベント来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		72,000	37	目 標	44,000	65,000	65,000	68,000
				実 績	44,000	69,000		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	68,000	69,000	69,000	70,000	72,000
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
賑い創出を目的とした事業であるため、成果指標としてイベント来場者数が適当であると判断した。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	20,000	19,992						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 予算額は28年度と同額である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
水都すみだの再生に向けて、魅力的な水辺空間を演出し、賑わいを創出していく必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
事業の目的は施策に合致しており、事業の適格性は高い。今後は、最終目標値の達成に向けてより効果的な事業運営を行っていく必要がある。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
		5	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
区内事業者の出店枠を設けており、区内事業者のPR等、地域への波及効果を有した事業であるため					
<b>中間・最終年度の講評</b>	より効果的・効率的な事業運営を目指し、運営事業者、関係部署、区内産業団体及び他自治体等との連携強化を図る必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	地域への波及効果等を考慮し、内容や実施方法等について検討していく必要がある。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	地域連携区内回遊促進イベントの実施					3		
事業概要	地域団体や区内企業等と連携し、地域を盛り上げるイベントを実施することにより、東京スカイツリーを訪れる観光客等の区内回遊を促進する。					主管課・係（担当）		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	地域を盛り上げる回遊イベントを実施することで観光資源を連携させる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「観光イベントの実施」と回答した区民が32.4%（8項目中3位）あり、高い需要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	東京スカイツリータウン内の広場を活用した回遊促進イベントを年3回開催しているが、その前提として、区と東武鉄道株式会社との間で広場利用に関する確認書を締結している。このことから、区による実施は妥当であると考えられる。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	イベント来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		176,000	37	目 標	185,000	172,000	172,500	173,000
				実 績	182,500	172,000		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	173,500	174,000	174,500	175,000	175,500	176,000
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光資源を連携させたイベントを実施することで、観光客等に対して、区内回遊を促す効果期待されるため ※イベント回数の減に伴い昨年度設定した目標値を下方修正した。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	スタンプラリーに参加した区内回遊者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		6,900	37	目 標	6,500	6,500	6,550	6,600
				実 績	6,500	6,538		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	6,650	6,700	6,750	6,800	6,850	6,900
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
イベント実施による直接的な成果指標であるため ※イベント回数の減に伴い昨年度設定した目標値を下方修正した。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	9,153	9,153						
	H35	H36	H37					

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
東京スカイツリー®を訪れる観光客等の区内回遊を促進する必要があるため					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
東京スカイツリータウン内の広場と区内の観光資源を連携させた事業であり、施策への関連性の高い事業であるため		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
		5	4	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
各地域における観光資源の認知度向上及び経済効果が期待されるイベントであるため					
<b>中間・最終年度の講評</b>	より効果的・効率的な事業運営を目指し、運営事業者、関係部署及び区内団体等との連携強化を図る必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	地域や関係団体との連携強化を図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みづくりを進めていく必要がある。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	観光舟運促進事業					4		
事業概要	観光を基軸とした舟運に係る事業を実施し、水上交通における区内回遊性の向上及び水辺の賑わいの創出を実現する。					主管課・係（担当）		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	観光舟運を中心とした水辺の賑わい創出により、楽しめるまちをつくる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「交通環境の整備（コミュニティバス、レンタサイクル、船の運行など）」と回答した区民が34.6%（8項目中1位）あり、高い需要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	「水都すみだの再生」に向け、観光舟運に係る情報発信やイベント等を区と事業者が連携して実施していく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	舟運活用イベント参加者数			単 位	人	
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
				目 標	9,500	9,700	統 合 →	
				実 績	9,500	9,824		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標						
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	舟運事業者と連携してイベント等を実施し、観光客等に対して観光舟運を含めた水辺の魅力を伝えていく必要があるため ※平成30年度から水辺空間を活用した賑わい創出事業と統合							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	おしなり公園・吾妻橋船着場使用回数			単 位	回	
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
				目 標	4,600	4,200	統 合 →	
				実 績	4,649	4,276		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標						
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
水上交通の活性化及び水辺の賑わい創出の進捗を示すものとして、上記指標が適当であるとする。 ※平成30年度から水辺空間を活用した賑わい創出事業と統合								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,610	1,000						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 前年比 1,610千円減				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
水都すみだの再生に向けて、観光舟運を含めた水辺の魅力に係る情報発信を行っていく必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
隅田川における観光舟運については、比較的順調に推移しているものと考えている。一方、内河川の舟運については、現状、運行上・営業上の課題も生じており、民間事業者が自走できるような仕組みづくりへの行政としての支援が必要であると考えている。		3	3	1	2
<b>3 効率性・経済性</b>		類似事業との統合			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ある				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
関連事業者との連携を強化し、事業実施までの工程やコスト面の改善を図っていく必要がある。					
中間・最終年度の講評	現在、内河川（おしなり公園船着場）で行われている民間の舟運については、北十間川樋門の課題や、扇橋閘門の工事（内河川に入るために、大幅な迂回が必要となる）等との関係によって、これまでの場所での運行、営業等の継続が難しくなりつつある。				
今後の方向性	2020年に向けて進められている「北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業（船着場、親水テラス等の整備）」と、既存の水辺の賑わい創出事業の効果等を掛け合わせ、民間事業者が継続性を持って営業活動がしやすい環境を実現し、引き続き、観光舟運の活性化に取り組んでいく。				

# 平成30年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	地域DMOの推進					6		
事業概要	(一社) 墨田区観光協会を、すみだDMOとして組織体制の確立及び計画の策定に係る支援を推進し、オールすみだでの観光地域づくりを実現する。なお、平成30年3月に、都内DMO法人第一号として登録手続を完了した。					主管課・係(担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への関連性	すみだDMOが中心となり、地域と共に観光まちづくりを推進し、墨田区内の地域の賑わいを創出し、楽しめるまちをつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	地域との協働により、地域の観光資源を掘り起こすことで地域の賑わいを創出し、おもてなし気運の醸成等を推進していくことにより、墨田区全体の更なる魅力の向上・活性化を図っていく。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)  地域DMOが自主的、主体的な活動を促進していくにあたり、区が活動を支援していく必要がある。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	推進協議会・連絡会の開催				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		5	32	目 標	0	5	6	6
				実 績	0	5		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	6				
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域DMOの目標像と経営方針、各機関の役割分担と関係性の検討、実施計画の策定やPDCAサイクルの確立等のため、活発な意見交換が求められる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	区内を訪れる観光客数 (観光関連施設入込客数及びイベント入客数)				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		10,000,000	37	目 標	9,100,000	9,300,000	9,500,000	9,700,000
				実 績	9,175,663	8,142,160		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	9,800,000	9,800,000	9,850,000	9,900,000	9,950,000
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
墨田区基本計画にある「すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる」という施策の達成をはかる指標として掲げられているため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	0	15,000						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	区内では不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
地域DMOが主体となって行う取組に対し、行政が支援する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
事業の目的は施策に合致しており、事業の適格性は高い。今後は最終目標値の達成に向けてより効果的な事業運営を行っていく必要がある。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
		2	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
地域DMOが自主的に観光資源の発掘や発信を行えるモデルケースを構築することは、区全体の魅力の向上につながるものと考えられる。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	地域DMOの目標像と経営方針、各機関の役割分担と関係性の検討等を行い、平成30年3月には都内DMO法人第一号として登録手続を完了するなど、段階を踏みながら着実に事業を推進している。				
<b>今後の方向性</b>	今後はDMO制度を活用した外国人観光客の誘致、受入事業を重点的に実施していくこととし、地域DMOが行う自主的な取組に対し区が支援する体制を構築していく。もって、事業の自走化を図る。				